

平成27年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
茨城県		イガラシ ユウジ 五十嵐 裕治	昭和55年4月、卒業と同時に管工事及び浄化槽施工を主とした会社に入社し、平成12年11月に代表取締役となり現在に至っている。その間、水環境に関する知識・技術を修得、浄化槽の適正な施工及び維持管理により、生活環境保全の向上に努め、地域住民に対しても生活排水処理の重要性を訴え、浄化槽の普及啓発に尽力している。 なお、生活排水による水質汚濁防止を図るために茨城県で導入された「浄化槽相談員制度」にも積極的に参加し、相談員として指導・助言を行い、法定検査や、正しい維持管理の推進等に大きく貢献した。 このような情熱と功績が認められ、平成12年6月から日立地区のリーダーに抜擢され、豊富な知識や技術を活かし、地区会員の技術向上に努め、地域住民の快適な生活及び水環境保全に寄与している。 さらに、平成15年5月には理事に就任するとともに、総務財政委員や法定検査推進委員として協会の運営にも積極的に参加して積極的に活動している。
千葉県	ウチノサトウパルティ タイセツ カイ 浦安三番瀬を大切に作る会		浦安三番瀬クリーンアップの事務局を務め、毎月ミニクリーンアップを実施するとともに、三番瀬の生き物調査観察会などの環境学習活動【平成27年度浦安市市民活動補助金交付事業】にも取り組んでいる。 昨年10月12日には、震災に伴い中止していた第17回浦安三番瀬クリーンアップ大作戦を再開、350名が参加し、三番瀬の護岸清掃及び保全啓発活動を行った。(今年度は三番瀬沿いの緑道工事のため実施できず。) また、浦安市役所と新浦安マーレ内に三番瀬水槽を設置したり、毎年環境月間に浦安市が実施する環境フェアに参加し、三番瀬の環境について周知啓発を行っている。
千葉県		シンド アリミ 穴戸 有美	穴戸氏は、家庭でできる生活排水対策を市民に広めるため、下水道未整備区域である真間川流域(真間川、大柏川、派川大柏川、国分川、春木川)を中心に、小学校や地元のイベントなどで、啓発活動を行っている。 これまで約11年間の活動で、約31,500人を対象に、生活排水対策の重要性を訴えてきた。 また、市川市等から提供される調査結果に加えて、自らも各河川の水質調査を実施し、啓発活動に生かすなど、対象者のレベルに合わせたプログラムの作成にも積極的に取り組まれて、後輩アドバイザーの模範となっている。 こうした活動が実を結び、水質は着実に改善され、魚の泳ぐかつての川が蘇りつつある。
神奈川県		ミナミ チュウジ 皆見 忠慈	平成8年10月から現在までの19年間に渡り、自社の排水水質自主基準設定等による水質汚濁防止に貢献。 また、土壌汚染に関する公害関係法令の会社(工場)の担当者として従事する中、平成15年1月に会社(工場)が土壌汚染対策法の趣旨を尊重し、自主的に工場敷地内の土壌・地下水調査を開始。 結果は土壌・地下水からトリクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレンが基準を超えて検出され、平成17年4月に茅ヶ崎市に報告するとともにホームページに公表、土壌汚染対策に着手した。 対策は、土壌ガス吸引、地下水揚水、生物的分解(バイオレメディエーション)、化学的分解(酸化・還元分解)、掘削除去を組み合わせ、2年間の地下水モニタリングを経て、平成22年4月に土壌・地下水汚染の浄化は完了した。 この土壌・地下水汚染の公表から浄化完了までの期間、近隣自治会長などへ汚染対策内容や身体暴露影響などの説明を行い、近隣住民の不安を払拭した。 また、平成8年10月から平成22年4月までの約14年間、茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会の役員会社担当者として水質汚濁防止等の協議会運営に協力。 平成21年2月には、茅ヶ崎市と茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会共催の市民、事業者に向けた環境保全セミナー、演題「環境への取り組み TOTOT(株)茅ヶ崎工場の環境活動について」において、主に土壌汚染対策の取り組みを、担当者ならではの経験談を基に講演するなど、土壌・地下水汚染対策知識の普及、市民・事業者の理解の増進に貢献した。 なお、上記以外にも社外にて複数回、環境保全関連の講演を行い、環境保全活動にも力を注いでいる。
富山県	ヤキヤマ タキホショウカイ 八木山の滝保勝会		富山県八木山を流れる「八木山の滝」は、古くから清流の名所として市民や観光客に親しまれている。これは、当会が下記のような環境保全や景観維持に向けた取り組みを行ってきた結果であり、その功績は大きい。 [活動内容] ・とやまの名水「八木山の滝」の清掃活動を年3回(3月、6月、12月)行っている。また、「八木山の滝」は木で囲まれており、落ち葉が多いため、訪れる人が足場を確保できるよう、通路の掃き掃除を定期的に行っている。 ・「八木山の滝」の周辺にある「滝御堂」と「八木山不動尊」の美化運動(草刈りなど)を年3回行っている。 ・毎年6月には、湧き水に感謝をささげ、これからも豊富な水が枯れないように願う「お不動尊祭り」を地域住民と連携して行っている。 ・これらの活動を昭和26年から約64年という長きにわたり、継続して実施している。
長野県		ハヤシ ヒロミチ 林 弘道	多年にわたり、環境保全研究所(旧衛生公害研究所)に勤務し、生活系排水処理として農業集落排水処理施設や家庭用合併浄化槽などの機能調査、あるいは山岳地域のし尿処理調査などに取り組むと共に、農業の環境残留に関する調査や研究に取り組んだ。特に、県南部の農地で起きた水稲、畑作の生育障害事例についての原因調査では、原因物質として非農耕地用除草剤を特定した。 また、県南の山間農村地域における広域的な地下水の硝酸性窒素汚染事例に対して、地形・地質調査、水質・土壌調査、窒素供給量調査などによりその汚染の原因究明、汚染機構の解明を行い、種々の汚染対策を提言した。 このような活動の傍ら平成6年には、それまでの業績をもとに博士号を取得し、平成15年からは水質部長、平成16年からは環境保全部長(チームリーダー)として後進の指導・育成にも努めた。特に地下水の硝酸性窒素汚染事例においては、環境アセスメント調査のあり方に言及するなど、その幅広い見識と指導力により県内の水・土壌環境保全に大きく貢献した。
静岡県	シズオカケンジョウカソウキョウカイシダハイバラ クラブ 静岡県浄化槽協会志太榎原支部		設立以来、地元に着実に浄化槽の普及と会員の社会的地位の向上に努め県下最大の支部にまで発展しているが、従来からの業界中心の活動から社会活動へ輪を広げるため、平成23年度から、支部活動の一環として近隣の小学校を対象に「環境教室」を開催し、地域における生活排水対策等の水環境保全に貢献することとした。 活動は年々支部管内に拡大し、本年度は21校、17回開催するまでになり、開始以来これまでに延べ47校、43回、2,596名の児童に実施し、その成果は高く評価され学校側からも継続希望が多く寄せられている。 この活動は現在県の補助対象事業として認められ、他支部でも実施されるようになり、協会本部としては今後県内全域に拡大する方針である。 この他にも、地域における各種のイベントに積極的に参加・出展して、水資源の大切さや浄化槽に関する啓発活動にも力を入れている。
愛知県		アサノ マサシ 浅野 政司	昭和49年に(株)西原衛生工業所に入社以来、一貫して水処理に関する知識及び技術の習得に努めるとともに、浄化槽管理者に対する単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換や浄化槽の適正な維持管理の普及、浄化槽設備士に対する浄化槽の適正な施工の普及等に努め、水質浄化に尽力した。 また、平成18年に愛知県浄化槽協会の理事に就任後は卓越した見識で協会の運営と発展に貢献し、同年から同協会の組織広報教育委員会委員として、さらに平成22年からは同委員会の委員長として、テレビCM(H23-25)やラジオCM(H27)、新聞折込チラシ(H25-27)を活用した広報活動を新たに提案・実行する等浄化槽の適正な維持管理の普及啓発により一層尽力し、水環境の保全に大きく寄与した。
愛知県		アオヤマ ヒロミ 青山 公美	平成5年に青山建材店に入社以来、一貫して水処理に関する知識及び技術の習得に努め、地元春日井市等と連携協力して単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換促進に努めるとともに、毎年10月の「浄化槽強調月間」に平成25年から実施している街頭啓発キャンペーンでは、春日井市において自ら先頭に立って浄化槽の適正な維持管理の重要性等を地域住民へ普及啓発する等、水環境保全に尽力した。 また、平成18年に愛知県浄化槽協会の理事に就任後は卓越した見識で協会の運営と発展に貢献し、同年から同協会の施工部会委員として毎年講習会や技術研修会を開催して、設備士、管理士等浄化槽関係者の知識や技術の向上に努め、合併処理浄化槽の普及促進や適正な施工・管理の普及啓発に力を注ぎ、水環境の保全に大きく寄与した。

滋賀県	フィールドワークやす		・年間7回の河川清掃を定期的に行っている。 祇王井川の野洲駅前地域(野洲小学校～JR線路交差点付近、米井分水路～ザウルス公園)×3回、童子川(法寺橋周辺)×2回、中ノ池川(総合体育館傍周辺)×2回 ・上記清掃を自治会や事業所に呼びかけて行っている。 ・地域の環境は地域で守れるよ、との思いで、上記河川清掃は地域の各自治会や事業所へも参加を呼びかけ、協働で作業を行っている。祇王井川では駅前自治会、童子川では五之里自治会、中ノ池川では松陽台自治会を含む奴玉まちづくり推進協議会、事業所は、京セラ(株)滋賀野洲工場、オムロン(株)野洲事業所、湖南病院、中国塗料(株)滋賀工場、野洲病院など。 ・河川(祇王井川)の流れを維持し、水生生物の生息環境等を守っている。祇王井川の取水源である野洲川石部頭首工の年次定期点検の際は、4～5日間連続で頭首工から取水停止となるため、分水ゲートの調整をして、その期間も水の流れを維持している。この対応には地域の水利管理者や、頭首工管理者である行政にも協力を仰いで行っている。
京都府	キョウ カワ メグ イ カイ 京の川の恵みを活かす会		京都市内を流れる鴨川を中心に堰や落差工などの構造物により河川の連続性が遮断されている場所に仮設魚道を設置するなど、天然のアユ、サツキマス、オイカワ、ヨシノボリなどの天然の魚が生息・繁殖できる水環境を整備・保全するとともに、設置した魚道を通過する個体数を調査し、より豊かな自然環境づくりに努めている。
京都府	キョウトフリツホクリョウコウトウガッコウ 京都府立北稜高等学校		1年生全クラスで水質調査(学校周辺の河川、池、校内のビオトープなど)を行うことで生き物が住める環境づくりを考えていくきっかけとしている。 校内で出る生ゴミを利用して2万匹のミズを飼育し、堆肥作りを行っている。その堆肥を使って花の栽培を行い、地域の駅、施設等に寄贈している。
香川県	シャカイフクシホウジン 社会福祉法人 ケイアイフクシジギョウダンハクチョウエン 恵愛福祉事業団白鳥園		国指定天然記念物「ランプロファイヤー岩脈」を有する鹿浦越や潮越海岸を中心として海岸清掃を長期にわたり継続して実施した。また、子ども会や中学校と合同の清掃活動を通じて水環境保全の学習・啓発活動に貢献した。
香川県	タカマツシリンヒガシウエタショウガッコウ 高松市立東植田小学校		ホタルが生息する河川の継続的な生物調査により、校区内の水環境の実態把握に努めた。また、高松市子ども環境学習交流会での調査結果の発表や、県が「残したい香川の水環境50選」に認定している公測池での現地学習の実施等を通じて、水環境保全の学習・啓発活動に貢献した。
徳島県	トクテイヒエイリカドウホウジン 特定非営利活動法人 カイブネイチャーネットワーク		徳島県南部に位置する室戸阿南海岸国定公園及び海部郡の自然環境の保全に関する事業を行うとともに、それを活かした地域経済の振興・促進を図り、自然と共生するまちづくりの推進を通じて、社会全体に寄与することを目的として活動している。 [主な活動内容] ・国定公園内や海岸の清掃、漂着ゴミの回収。ウミガメが上陸する海浜の環境保全、千年サンゴ保全活動。 ・地域住民も参加する「磯のいきもの観察会」を牟岐町の松ヶ磯で実施。松ヶ磯を含め、地域の磯に生息する海岸生物の調査を実施。 ・地元小学校の課外事業の講師を勤めるほか、地域住民を対象とした環境保全活動及び講演を実施。
徳島県	ナカチオウリツヒラダニショウガッコウ 那賀町立平谷小学校		学校の近くを流れる丈ヶ谷川で、長年にわたり継続して水生生物調査を実施している。 3年生以上で4～5人の縦割り班を作り、毎年、夏期休業日の登校日に実施している。今年度は2学期始めに実施した。 子どもたちは、毎年の調査で、丈ヶ谷川が、きれいな水質を保ち、豊かな河川環境であることを実感している。また、普段、河川に親しむ機会が少なくなっている子どもたちは、この調査で自然に直接触れることを楽しみ、生き生きと活動している。
高知県	クロソン しまんと黒尊むら		「平成の名水百選」に選定された四万十川支流黒尊川の流域において、水辺林の間伐を行うとともに、年4回の水質調査の実施や子供を対象とした川の生物調査、夏場川遊びの人々が増える前に川への歩道整備や草刈等を行っている。
熊本県		ナス、ヨシノリ 那須 義則	熊本県の在職年数約38年(退職後の再任用も含む)の大半を水環境保全に係る業務に携わられた。その立場も、本庁における水環境行政、出先機関における環境行政及び試験研究機関等と各分野にわたり、常に広い視点で県民の立場を視野に水環境保全に携わられた。特に河川海域の水質調査、河川の生物調査や水質保全啓発には長く携わり、実態把握と水保全に力を入れて取組まれた。 1. 水保全に係る啓発、指導活動(15年) 2. 環境センターでの環境学習の実施(3年) 3. 公害防止事業場での環境復元事業を実施(3年) 4. 公共用水域の水質監視と結果公表、一般県民への啓発(10年) 5. 水環境基準の類型指定に係る業務(6年) 6. 熊本県生活排水処理施設整備構想の策定(1年)
大分県	ガッコウホウジンイナバガエン 学校法人稲葉学園 タケミナミコウトウガッコウ 竹田南高等学校		竹田南高校は、平成7年度から21年間、竹田市内を流れる3カ所の河川(いずれも大野川水系の稲葉川、緒方川、神原川)で水生生物による水質調査を継続しており、河川の水質やそこに棲む生物の実態把握に永年努めている。 また、水生生物調査に併せて河川の清掃活動も行い、将来を担う高校生の水環境保全意識の醸成に貢献している。
千葉市	ハナミガワ カンキョウ マモ カイ 花見川の環境を守る会		毎月1回花見川沿いのサイクリングロード及びその周辺の清掃に伴うゴミの回収を実施している。また、毎月1回定点10箇所での水質検査と生物の生息状況の観察を実施している。さらに、花見川流域の水質環境保全に貢献することを目的として、必要な調査、提案、啓発活動をしつつ、関連団体との交流を図っている。
北海道地方 環境事務所	トクテイヒエイリカドウホウジン 特定非営利活動法人 ナンボロ ふらっと南幌		平成21年から継続して幌向運河の環境美化・清掃活動を行っている。 平成21年から開催している水環境学習会に加え、平成22年から幌向運河及び周辺の田んぼに幌向で採取したドジョウやヘイケボタルを繁殖させて放流し成長過程を観察するドジョウ環境学習会を開催。 平成24年にe-水プロジェクトに「幌向湿原固有種植生の再生・環境保全・活用事業」が採択されたことから、幌向湿原の名を冠した「ほるむい七草」の復活のための研究と生息環境を整えるために必要なオオミズゴケの栽培実験を開始し、現在まで湿原植生再生保全のための啓発活動、オオミズゴケの繁殖技術の確立、泥炭採取跡地の状況等調査を行っている。
九州地方 環境事務所	トクテイヒエイリカドウホウジン 特定非営利活動法人 カンキョウ キョウカイナガサキ 環境カウンセリング協会長崎		長崎県対馬、壱岐、五島等の離島において、学生らによる海岸漂着物の清掃活動への協力や回収・分別調査を実施している。平成18年には、日本と韓国の学生によるワークショップの支援に取り組み、海岸環境の保全及び海岸漂着物の国際的な課題の共有に大いに貢献した。また、「ながさき漂着ごみサミット」を開催し(平成21年～23年)、長崎県内の海岸保全活動に関わる団体のプラットフォームの構築に寄与した。さらに、平成23年からは県内の小学生を対象に、人形劇と紙芝居を活用して、漂着ごみに係る環境教育に精力的に取り組んでおり、海岸漂着物発生抑制の啓発に尽力している。